

第 82 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 議事録

I. 日 時：2017 年 11 月 29 日（月）13 時 30 分～16 時 10 分

II. 場 所：日本機械学会 第 1 会議室

III. 出席者：（委員 19 名中、出席者 16 名、欠席者 3 名）

三原（東北大）、飯田（東電 FP）、藤田（MHPS）、木村（NIMS）、三好（川崎重工）、
天野（早大）、佐藤（発電技検）、岡（富士電機）、松田（HSB ジャパン）、
長塚（電源開発）、東垂水（中部電力）、木村（東芝）、桑原（関西電力）、
澤野（日本電気協会）

代理者：長尾（福富、電中研）、園山（高木、火原協）

欠席者：中谷（大口自家懇）、関根（IHI）、長谷川（日鉄住金テクノロジー）

オブザーバ：伊藤（IHI）、樺田（MHPS）

事務局：原

IV. 配付資料

82-1 第 81 回火力専門委員会議事録（案）

82-2 専門委員会・分科会委員案

82-3 第 83 回規格委員会議事録（案）

82-4-1 材料分科会報告

82-4-2 構造分科会報告

82-4-3 溶接分科会報告

82-5 各分科会審議履歴表

82-6 火力専門委員会書面投票 No.72 結果報告

82-7 公衆審査（2017 追補、事例規格）結果報告

82-8 規格策定の手引き（DRAFT）

82-9-1～5 発電用火力設備規格 201X 年版第Ⅱ章材料 改訂提案

V. 議事

1. 前回議事録確認 [82-1]

前回議事録（案）の確認を行ない、議事録案は承認された。

2. 専門委員会、分科会の委員・役員承認 [82-2]

(1) 火力専門委員会委員の推薦承認

木村委員と堀委員の退任が報告された。新任候補として江藤氏（経済産業省）の推薦が報告され、出席委員全員の賛成により規格委員会に推薦することが承認された。

・火力専門委員会：（新任） 江藤氏（経済産業省）

（退任） 木村委員、堀委員

（再任） なし

(2) 分科会委員の承認

各分科会の以下の退任、新任・再任候補が報告され、出席委員全員の賛成により承認された。

- | | | |
|-----------|------|---------------|
| • 材料分科会： | (新任) | なし |
| | (退任) | なし |
| | (再任) | 菊原委員、長谷川（忠）委員 |
| • 構造分科会： | (新任) | なし |
| | (退任) | なし |
| | (再任) | 西田委員（幹事）、豊嶋委員 |
| • 溶接分科会： | (新任) | 堀氏（関西電力） |
| | (退任) | 辻委員 |
| | (再任) | 飯田委員 |
| • 配管減肉分科会 | (新任) | なし |
| | (退任) | なし |
| | (再任) | 橋井委員、渡邊委員 |

3. 報告事項

(1) 発電用設備規格委員会報告

[82-3]

第83 回規格委員会（9/7）の議事内容のうち、火力に関連する内容が報告された。

- 火力専門委員会の委員の承認
- 火力専門委員会報告（8/28 開催）
- 発電用火力設備規格に関する審議：高クロム鋼に係る発電用火力設備規格の追補、事例規格案について
 - ① 発電用設備規格委員会の書面投票 No.373 における書面投票意見対応による修正案の承認。
 - ② 公衆審査実施の承認。
 - ③ 公衆審査完了後に JESC（日本電気技術規格委員会）に審議依頼することの承認。

(2) 分科会報告

1) 材料分科会報告

[82-4-1]

伊藤材料分科会主査から第 87 回分科会（H29.10.18）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- 第 36 回材料専門委員会(8/25) 報告
- 表Ⅱ-2-1 の新旧対比表、JIS 年版変更評価検討票の審議。
- 発電用火力設備規格 201X 年版について、改訂提案することの承認と改訂提案資料の確認。

2) 構造分科会報告

[82-4-2]

飯田構造分科会主査から第 98 回分科会（H29.11.8）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- 発電用火力設備規格 201X 年版に関し、Ⅲ章、Ⅴ章の新旧対比表の確認。

- 発電用火力設備規格 201X 年版に関するレビュー票のダブルチェックの審議状況、新旧対比表の準備・確認の状況。
- 今後の作業の進め方について。

3) 溶接分科会報告 [82-4-3]

樺田溶接分科会副主査から第76回分科会(H29.9.11)、第77回分科会(H29.11.14)の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- 新旧対比表の改訂内容の分類、記載方法・書式の再確認
- 発電用火力設備規格 201X 年版レビュー票、新旧対比表の審議状況
- 今後の作業の進め方の確認について。

(3) 火力専門委員会書面投票 No.72 [82-6]

無記名による書面投票の結果、三原委員が火力専門委員会の委員長に選任(二期目)されたことが報告された。

(4) 公衆審査(2017 追補、事例規格) 結果報告 [82-7]

公衆審査(2017 追補、事例規格)の結果(ご意見なし)が報告された。また、JESC 審議など今後の予定について説明があった。

(5) 規格策定の手引き(DRAFT) について [82-8]

事務局が、現在規格委員会幹事会において策定準備中の規格策定の手引き(DRAFT)を紹介した。

4. 審議事項

(1) 発電用火力設備規格 201X 年版第Ⅱ章材料 改訂提案 [82-9]

伊藤材料分科会主査から、発電用火力設備規格 201X 年版の改訂提案があり、審議の結果、火力専門委員会の1ヵ月の書面投票を行うことが、出席委員全員の賛成で承認された。

主なご意見、質問は以下のとおり。

<資料 82-9、9-1~3>

- 参照規格年版の変更において、ASME の BPVC の変更後が 2011Addenda、B31.1 が 2012Edition となっており、2015 年追補、2017 年追補を制定した後なので、規格が古いものに戻ったようなイメージを持たれる恐れがある。このようなご意見があった時の対応、説明方法などを準備しておいた方が良い。
 - 簡単な説明資料を用意するなど、事前に準備します。
- ASME の参照年版の変更において、2011Addenda などとあるが、Addenda は変更箇所のみのものであるので、例えば 2011Addenda の場合には、2010Edition 2011 Addenda と記載した方が良いのではないか。
 - 誤解のないような記載方法を検討します。

○参照年版の変更に關して、BPVC の 2011Addenda は B31.1 の 2009Addenda をリファレンスしているの、B31.1 が 2012 年版を参照規格としているところが少し気になるところである。補遺において、何らかの説明をした方が良いのではないか。
→ 補遺などで、補足説明することを考えます。

○変更内容で罫線とあるのは、どういうものなのか。
→ 許容応力表において、余分な罫線が引いてあるところ、罫線が足りないところを修正したものです。

○ASME のコードケース材が新規材料として取り入れていないが、特に取入れに問題のない材料であれば取り入れて、使えるようにしておいた方が良いのではないか。
→ ・ASME のコードケース材については、分科会の中でアンケートを行って、今後使われる予定があるもの、ニーズがあるものを取り入れています。
・新規材料の取入れの方針が補遺に記載されており、ASME のコードケース材に限らず、ニーズがあるものは取り入れることにしている。今後の検討課題としては、取入れ判断時に、もう少し広く意見を求めることが必要になるかもしれない。

○許容応力表の改訂内容総括表において、改定内容が「修正」というものが多数あるが、修正は間違っているところを直す意味がある。内容からすると、「変更」にした方が良いのではないか。
→ 内容を見て検討したい。

○改訂内容総括表において、火技解釈参照材が火力解釈参照材と記載されている箇所（2ヶ所）がある。
→ 修正します。

<資料 82-9-4-1>

○表Ⅱ-2-1 JIS 材（非鉄材料）において、作業中の吹き出しのコメントが残っているので、削除願いたい。
→ 削除します。

○表Ⅱ-1-2 ASME SectionⅡ材（鉄鋼材料）の備考において、一般要求事項の JG9 は 2017 追補において無くなっているの、いらないのではないか。
→ 確認して削除します。

<資料 82-9-4-2~3>

○P88 の 201X 年版の図 NFN-2 に X 印がついているが、どのような意味か。
→ これは、201X 年版では削除するという意味です。

<資料 82-9-5>

○G1228 の評価票が、後ろの方にあるが。

→ リストの順序と評価検討票の順序を合わせます。

○リストにおいて、G5121 が2つあるが。

→ 1 行は削除します。

VI. 次回開催予定

日 時：2018 年 2 月 21 日（水） 13:30～17:00

場 所：日本機械学会 第 1 会議室